

高齡化とまちづくりの担い手について

とき 12月5日(火) 午後6時~(2時間程度)

ところ アスティ4.5・4階Bホール

(札幌市中央区北4条西5丁目)

基調講演

これからのまちづくりの担い手について
—成功事例から見る一人ひとりの役割—

基調講演・コーディネーター

北星学園大学 社会福祉学部教授

岡田直人氏

プロフィール 1968年大阪市生まれ。大阪市立大学大学院生活科学研究科前期博士課程人間福祉学専攻終了。96年日本福祉学院専任教員、2000年梅花短期大学専任講師、02年大谷女子大学専任講師を経て08年北星学園大学福祉学部福祉計画学科准教授、13年から同学科長・教授。

著作、論文は『認知症ケア標準テキスト 改訂5版 認知症ケアにおける社会資源』(共著:ワールドプランニング)、『高齢者の居住の安定確保に関する法律(高齢者住まい法)』(同)。『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法II(第3版)』(共著:中央法規出版)など多数。

この10年で高齢者の数は1.3倍になり、団塊世代が全員75歳以上になる2025年は目前です。孤独死や孤立死、買い物難民や医療過疎など、高齢化にまつわる深刻な課題は待ってくれません。

都会では、高齢化による団地自治会の機能不全が、地方では過疎化に加え、高齢者の生活を住民が支えようにも、担い手がないという問題があります。昔からあった、近隣のさりげない見守りも、個人情報保護といった現代の風潮では期待できません。

高齢者サービスを効率化するため、高齢者の住まいを集約する考えもありますが、各自の生活やプライバシーの問題があり簡単ではありません。

近年、自治体と企業による、高齢者の見守りに関する協定締結が進んでいます。また、センサーやGPSなど情報通信技術を活用した

見守りシステムが、一部で実用化されてきています。

いま、現実的な対応の見本になるのが、自助・共助・公助の仕組みで、その担い手は高齢者自身です。増え続ける高齢者の見守りや、生活の支援には、多くのマンパワーが必要です。企業の協力や、ボランティアなど地域の多様な人々との連携も必要です。「老害だ」「役所の下請けだ」と批判されることもある自治会や町内会が、高齢者を支える新たなシステムを考えても良いでしょう。

住民自らが課題解決に取り組む、自助・共助・公助はどのようにあれば良いのでしょうか。

①高齢化する地域コミュニティの維持と再生②公共サービスの提供(新たな公共、企業活動)③公共団体の役割—の3つの視点から、それぞれの立場で活動されている方々のお話を伺い、取り組みの方向性を見いだしていきたいと思います。



パネラー

認定NPO法人 シーズネット
理事長 奥田龍人氏**プロフィール** 1952年札幌市生まれ。同志社大学法学部卒。道職員を経て、道社会福祉士会会長、札幌市介護支援専門員連絡協会会長などを歴任。2011年からNPO法人シーズネットで活動し、同理事長。道高齢者向け住宅事業者協会理事長なども務める。

パネラー

NPO法人 福祉NPO支援ネット北海道
代表理事 山本純子氏**プロフィール** 1959年札幌市生まれ。北海道武蔵女子短期大学英文科卒。北海道NPOサポートセンター職員を経て、福祉NPO支援ネット北海道を立ち上げ、現在、代表理事。2006年より公益財団法人さわやか福祉財団のインストラクターも務める。

パネラー

札幌市民生委員児童委員協議会
副会長 紙谷京子氏**プロフィール** 1948年夕張市生まれ。高校卒業後、北の誉酒造に就職。83年札幌市北区青少年育成委員に就任後、民生委員児童委員、札幌北警察署協議会委員、北区民生委員児童委員協議会会長などを経て、16年同市民生委員児童委員協議会副会長。

*参加申込・問合せなど FAXでの参加申込は、11月25日(土)までに、このチラシの裏面に氏名・住所・所属などを書いて申し込んで下さい。電話によるお問合せは、011(375)8002へ。なお、ご記入いただいた個人情報は、この催し以外には使用いたしません。